



田中陽介
(33)

マジックゴトを「ジブンゴト」に。

たとえば自家栽培野菜、手前味噌、D—Y。自分が手間をかけたものは愛着が湧きます。まちづくりに関わることは、郷土愛とは、そういうものだと思います。

みんなが自然にこの地域を、

野洲を好きになっていく。

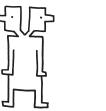
そんな街をつくるのがボクの仕事です。



みんなでやる
多様な市民が気軽に参加できる、
フラットな議論の場づくり

今回の病院整備やこれから駅前開発、クリーンセンター付帯施設、医療費の無料化など街の重要な案件は様々ですが、これらにどのくらいの市民が関わっているのでしょうか。情報は確かに公開されています。しかし、市民参画への窓口を開かれているようには感じません。今までのやり方では、関わる人間はほんのひと握り。10代～40代、これから街を担っていく人間はほとんど関わらないまま決定されています。これでは街に愛着など持てるはずもありません。これから本当の意味での市民参加を市に求めると同時に、自らもそうした活動を積極的に行います。

視点を増やす



YESかNOかじゃない、
多様性のある計画づくり

例えば、病院に税金を使うのもひとつですが、病院のお世話にならないための健康づくりや環境づくりこそ大切という視点もあります。何を大切にしているかは本当に、人それぞれ。駅前、病院が要るか・要らないかの二極論ではなく、みんなの気持ちを汲み取れない。まずは自分自身、身の回り、そして次の世代がどうなれば「気持ちいい」のか、それをみんなが真剣に考えるのが先ではないでしょうか。病院に限らず、街づくりや文化、デザインなど多様で多角的な意見を取り入れる姿勢を市に求めます。

市民と市どがお互いを知り、
主張を認め合える環境づくり

シェアし合う



ひとりひとりが 「気持ちいい街」を みんなで創る。

生きるのに気持ちいい。暮らすのに気持ちいい。毎日が気持ちいい。
ボクたちひとりひとりがすでにこの街を形成しています。
だから、ひとりひとりが「もっと気持ちいい野洲」を創っていけるんです。

市民、市、民間、これらが三位一体となり、街をつくっていると考えます。それがお互いを理解することで、「気持ちいい街」になつていくはず。ボクはそのための小さなタウンミーティングを開きながら学びます。これは三者三様に負担となります。これが議員として最初の大きな役割だと考えています。

+ 駅前病院整備計画について

もっとオープンな対話が
まだまだ必要です。

今の進め方には全く賛同できません。一部の意見だけ取り入れた計画のように見え、大多数の市民の声を無視しているように思えるからです。住民投票を11月に控え、残された時間は多くはありません。限られた時間の中で、みんなで知り、考え、議論し、理解する場をひとつでも多く創る。これが議員として最初の大きな役割だと考えています。

田中陽介
プロフィール

1984年4月3日生まれ 33歳
野洲市木部出身「清七」185cm 82kg
バスケット歴23年
滋賀リーグ1部「S.W.A.T.」所属

経歴

- ・中主小学校
- ・守山高校
- ・龍谷大学経営学部
- ・(株)テレウェイヴリンクス
- ・ネシンカロンミュージック
- ・(株)ナチュラルハーモニー

現在

- ファンキーフームタナカ 代表
- 予約制ロハス居酒屋 倉屋 店主
- おうみ市民放射能測定所 広報
- 満月マルシェ 主催メンバー
- 家棟川エコ遊覧船 船頭
- 農事組合法人にしきの郷
- くらしとせいじカフェ
- 野洲市食育推進委員
- 野洲市青年農業者クラブ
「おいで野洲ひまわり迷路」「幼稚園じゃがいも体験」「黒豆枝豆収穫祭」



www.tanakayousuke.net